

第5回益子町図書館基本計画策定委員会 議事録

日時:令和3年7月20日(火) 15時~17時30分

場所:益子町中央公民館第1研修室

出席者:委員 15名、アドバイザー3名、事務局 4名

欠席者:4名

次第

1 開会

2 あいさつ

3 内容

(1)6月5日実施 ワークショップについて(報告)

(2)6月29日実施 第3回視察研修について(報告)

(3)7月10日実施 図書講演会について(報告)

(4)益子町図書館基本計画(案)について

(5)その他

4 その他

会議 8月27日(金) 午後3時~

ワークショップ 8月21日(土) 午後1時30分~

5 閉会

事務局/あらためまして、みなさん、こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。第5回益子町図書館基本計画策定委員会を始めさせていただきます。開会にあたりまして、委員長よりご挨拶いただきます。

委員長/こんにちは。暑い中お集まりいただき、ありがとうございます。本当に昨日、今日と暑いですね。私事ですが、昨日は暑さのため、庭の白メダカが10匹、黒メダカが20匹死んでしまいました。慌てて水を入れ替えたので、他のは何とか無事でしたが、それくらい暑かった。皆さんも健康には十分ご注意ください。今日は第五回の策定委員会。報告もありますし、基本計画案ができてきたので、それについてのご検討をよろしくお願いいたします。

事務局/ありがとうございました。本日は教育長が欠席しております。かわりまして、課長からよろしく申し上げます。

事務局/教育長は都合のため、本日欠席です。教育長が挨拶を用意しておりますので、代読させていただきます。よろしくお願いいたします。

(代読) 本日は、各委員の皆さまには、お暑いところ、お忙しいところ基本計画策定委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。東京オリンピックまであと3日となりました。新型コロナウイルス感染の拡大により、東京都では緊急事態宣言の中の開催となり、ほとんどが無観客での開催となります。コロナだけでなく、暑さとの闘いもあり、歴史に残るオリンピックになります。選手にはこれまでの努力の成果を発揮していただきたいと思います。私も自宅で応援いたします。さて、益子町の図書館建設の状況ですが、3年前に図書館を考える会から提案をいただき、2年前、平成31年1月に基本構想検討委員会が発足し、令和2年3月に基本構想検討委員会から報告を受けたところでございます。その後、図書館基本計画策定委員会に引継ぎ、町民の皆さまからのアンケートや話し合い、講演会、ワークショップなどを実施してまいりました。現在は、策定委員会の後半に入り、どのような図書館にしてほしいかのまとめをしていくところです。先日、7月10日(土)に図書館講演会と交流会がございました。交流会で、参加者からの質問を受け、大塚町長が図書館について次のような話をしましたので、ご紹介させていただきます。「図書館は、人財が育つ場所にしたい。人が集まりやすく、図書館に行くと、自然に人が育つ。そういう場所にしたい。そして、住みたいまちという価値が加わり、移住・定住をしたいまちにつながるものにしたい。このことを、町民の皆さまの多くの人に広めていってほしい」というお話でした。町教育委員会としましても、今後努力してまいりますし、基本計画策定委員会の皆さんにも引き続きご協力をお願いいたします。本日の策定委員会においては、委員の皆様から益子ならではの図書館についてのご意見をお出しいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

以上、教育長からの代読でした。どうぞよろしく願います。

事務局／それでは、内容に入っていきます。ここからの進行については、委員長に願います。

委員長／それでは、内容に入ります。最初は、6月5日のワークショップの報告を事務局から願います。

事務局／それでは、事務局から報告させていただきます。6月5日土曜日の午後、場所は研修室を予定していましたが、できるだけ多くの人に活動を知っていただきたいと、通りかかる人の目に入る下のロビーでやらせていただきました。参加していただいたのは17名、高校生からご年配の方まで幅広くご参加いただきました。今回のテーマは「求む特派員!! “今”を伝える益子メディアづくり」と題しました。まだ図書館について、図書館建設についてよく知らないという方に、図書館のこと、図書館建設活動のことを知っていただきたい。そのためには、町の皆様からも発信していただきたい。発信の形態については限定しないということで、あえてメディアづくりという表現にさせていただきました。今回は、初回として、神奈川県で地元の情報を発信されているNPO法人森ノオトのお二人にご参加いただき、情報発信の心構え、地域の方との向き合い方などをお話いただきました。後半には、益子について、本や図書館について、参加した方が皆さんに伝えたいこと、調べてみたいことを話し合いました。益子に来たばかりの方、長く住まれている方、若い方、経験を積まれている方、いろんな立場の方が発見するものの違い、また、その発見されたものに対する反応の違いがおもしろい化学反応になり、いろんな視点からネタのタネがたくさん生まれたと思いま

す。次回のワークショップからは、発信に向けてそういったネタのタネを掘り下げていったり、まとめていったりになるかと思います。また皆さまと一緒に活動できるのを楽しみにしております。

事務局／続いて、参加した方からも感想を言っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

委員／6月5日に参加させていただきました。私は20年くらい前から図書館友の会を作りまして、活動しています。活動開始2～3年目から現在まで、70号くらいになりましたか、年4回「益子図書館友の会だより」を出しまして、私たちの活動の中身や、図書館が欲しいという要望、一般の方の声、バザーや古本市をやるにあたっての寄付のお願いなどを記事として出しています。形式としてはマンネリ化してきていたので、今回は「“今”を伝える益子メディアづくり」ということで、私たちの活動、発信の仕方にも大いに参考になるのではないかと、興味深く参加させていただきました。グループごとになったときに、まずはいろいろな考え方を持っている人がいるんだとわかりました。図書館に対しての思い、益子町に対する思いがお互いに理解できてよかったと思いました。どんなふうに発信していったらいいかはこれからの話になるので、次回がとても楽しみです。パワーポイントの資料が遠くて、視力も悪いので良く見えなかったのが残念だったのですが、今日、資料もいただけで、ありがとうございました。以上です。

事務局／ありがとうございました。続きまして、よろしくお願いします。

委員／私もワークショップに参加させていただきました。私は、森ノオトさんが活動している横浜市青葉区に住んでいたことがあるので、どんな活動をされているのか、実はわりと存じ上げていました。「こんなことができるのかも」という具体的なところが見えてきたのがうれしいことでした。町民の皆さんに発信すればいいのにと、ずっと前から思っていたので、図書館だよりが出たときもようやく出たと思いました。それを今度は町民が参加してできるかもしれないというのは、とても楽しみにしていました。1回目は、図書館に限らず、町の魅力にどんなものがあるか、皆さんで話し合ってみましょうということだったので、私たちのグループは図書館というより町について話し合い、とても楽しい時間でした。図書館ができたときに、こんな活動を町民の皆さんとできたらいいなというシミュレーションみたいな感じもして、とても今後の参考になりました。次回も楽しみにしています。以上です。

委員長／ありがとうございます。2名の方にワークショップの感想をいただきました。他にございましたら、お願いします。感想でも、要望でも結構です。ワークショップはこれからも何回か開いていって、町民の皆さんの理解が深められたらいいなと思います。それでは、ないようですので、6月29日の視察についてお願いします。

事務局／6月29日に、茨城県に3つの図書館を見に行かせていただきました。1つ目は結城市のゆうき図書館です。こちらは、結城市民情報センターという複合施設の一部を担うところで、Wi-Fi設備の整ったフリースペースや多目的ホール等、いろいろな施設が入っていました。平成16年の開館で、その当時の最新鋭の設備が入っているとのことで、自動化書庫だったり、返却もベルトコンベアで運ばれていたり、機械化が進んでいると感じました。もう一つ感じたのが、駅前にある図書館で、とても人の目を意識しているのではないかということです。大体の図書館において、カ

ウンターの後ろは雑然としていますが、ここはとてもきれいに飾られていたので、結城市の顔として見せることを意識しているのではないかと感じました。結城市ゆかりの詩人の方、免疫学者の方のご遺族からの寄贈を受けてコレクションルームも作られていて、結城市について知らない方にもPRができるようになっていました。2つ目は筑西市の図書館で、選書も固いラインナップで、古き良き図書館という印象でした。川の近くの建物で、外の景色が見える形で、窓側にぐるりと学習席が設けられていました。学習席の仕切りも、細い木を組み合わせ、斜めから見ると壁のようだけれど、正面に立つと隙間があって風が通る、ほどほどに視線が遮れて、閉塞感はそれほどないものになっていました。高校生の利用も多く、地域に根差した図書館だと感じられました。3つ目は笠間市の図書館に行かせていただきました。「かさましこ」で焼物のつながりも強く、利用登録の制限を設けてないとのことで、益子町民も利用している親近感のあるところです。建物に笠間焼や稲田石といった地場産業を活用していたり、書架間のスペースを活用して、作家の紹介リレーによるミニギャラリーを作っていたり、作家の作品展のフライヤー等を資料として集めていたり、こちらも益子焼を中心に盛り立てていこうかというところで、大変参考になりました。3館それぞれに違ったコンセプトが感じられ、有意義だったと思います。

委員長／それでは、視察研修に行かれた方の感想をお願いします。

委員／視察研修に初めて参加しました。3つの図書館それぞれに違った特徴がありました。筑西市の蔵書で、こんなものがあるんだという仏教関係の辞書がありました。益子でも、特徴を出していこうというところですが、どこまで掘り下げて蔵書を揃えていくのか、気になりました。高3の時に真岡市の図書館で勉強して以来、30数年ぶりに図書館に足を踏み入れました。益子に限ってはそんなことにならないような図書館づくりを進めていただきたい。

話はそれますが、益子の広報について最近考えることがあります。このたび遊歩道の整備をして、下野新聞の取材を受け、この後真岡新聞からもあります。また、浄土宗新聞でも、ネットの投稿を見て掲載させてほしいと連絡がありました。益子の広報にもお話をさせていただいた。お金儲けのためではなく、たくさんお参りに来ていただき、周辺でご飯を食べたり、益子焼や他の寺社を見たりして町の活性化になり、お金を落としていってくれればという思いで作ったもの。土祭や図書館、道の駅と益子は盛沢山。そういったところとうまく連携していくのが一番大切ではないかと思っています。益子の広報にも喜んでもらえるかと思ったら、しばらく間があってから連絡があり、ネットで告知をしていきたい。それも今ではなく、紅葉のライトアップのときにという話でした。そのときにはまた出してもらえばいいと思うのですが。今はこういうものがあり、密にならないように見てくださいとPRできればと思ったのですが、ネットで秋にということでした。年配の方はまだまだネットになじんでいないと思います。私もましココハウスや町の情報をフォローしてチェックしていますが、反応が少ないと思います。もう少し情報の発信の仕方、SNSも結構ですが、広報ましこできちんと周知していただくのが大事なんじゃないかと感じています。コロナもありますが、ましココハウスの利用も伸び悩んでいる。運営に関して、もっと工夫が必要ではないか。図書館からは離れませんが、最近そう感じています。

委員長／ありがとうございます。続いてお願いします。

委員／視察に参加させていただきました。ゆうき図書館は規模も大きく、複合施設で、自動化書庫など機械化が進み、お金がかかっていました。中でも驚いたのは、天体ドームが図書館にあるのはおもしろいと思いました。益子にも天体ドームが益子の森にあります。図書館ができれば、そういう今ある施設と連携したプログラムを作っていけたら町の施設の活性化にもなるかと思いました。筑西市の中央図書館は、川沿いのロケーションで、川がきれいに見えるように設計されていました。益子の図書館も、百目鬼川の近くなので、川が見えるくらい近いかはわかりませんが、参考になるかと思いました。益子は自然が豊かなので、外部環境とつながるような、益子の町をきれいに見せてくれるような建物だと、観光的な視点で見てもいいのではないかと思います。そういう点で参考になりました。それから、高校生が多く訪れていて、サードプレイスというか、町の人が積極的に活用しているのが見えて、いい図書館なんだろうと思いました。ゆうき図書館と筑西市立図書館は、図書館の設計を多く手掛けている同じ建築家が担当しているのですが、ぱっと見は特徴が違うようで、設計の面からは、それぞれ行き届いたおもしろいものになっていて参考になりました。笠間は、笠間焼。益子は益子焼があるので、ミニギャラリーや作家のDMの紹介とか、益子でも取り入れられるもので参考になると思いました。今までの視察で、どれ一つとしてかぶることなく、それぞれ地域の良さをとりいれた図書館でした。益子町もそういうところを参考にしながら、益子町らしい図書館を作っていけたらいいと思いました。ありがとうございました。

委員長／ありがとうございました。お二人から感想をいただきました。他に気が付いた点がありましたらお願いします。私も行かせてもらいましたが、3館とも共通しているのは人ですね。図書館に愛情をもって接している。一生懸命取り組んでいるということがひしひしと感じられました。そこが印象的です。建物だけで終わるのではなく、それを将来に結び付けていくのは人です。今からそういう人材養成をしていくことも必要だと感じました。それでは、7月10日の講演会、佐久間さんをお招きしてお話を聞いたのですが、その感想をお願いします。

委員／講演会に参加させていただきました。今日は当日の資料を持ってきていなくて、思いだしているところです。私が図書館を作ろうという会に参加させていただくようになってから、須賀川市の図書館のことはとてもよく聞きます。ここはいいという評判をよく聞くのですが、なかなか行く機会がなく、4月の視察でもちょうど用があって行けずに、とても残念だと思っていたところに講演会があったので、興味を持って参加しました。元センター長の話聞く中で、あそこはとても大きい施設なので、益子に図書館を作るとしたら、こういうところはいいよ、でもこういうところは真似しない方がいいよと、マイナスなところもお話してくださったので、参考になったと思います。やはり、お話を聞くだけでなく、実際に行ってみたかったというのが正直な感想です。以上です。

委員長／ありがとうございます。続いてお願いします。

委員／こんにちは。講演会に参加させていただいて、今の益子にとって、佐久間さんが建設プロセスの話をしてくださったのが、今まで参加した講演会の中でいちばんプラスになりました。委員長もおっしゃっていましたが、建物よりも人ということをもっとそこでさらに感じる事ができました。最後

に町長も参加しての交流会があったので、今回はコロナで人数制限がありましたが、ああいう講演会をもっと多くの町民に広げていったら、町民の中から建設をしっかりとやろうという気持ちが出てくるんじゃないかと感じました。ありがとうございました。

委員長／ありがとうございました。お二方の意見をいただきました。他にございましたら。

事務局／今回は皆さんに資料をお配りしていませんが、講演会に参加されなかった方は、後ろに10部ほど用意していますので、帰りにお持ちください。よろしくお願いします。

委員長／それでは、ワークショップ、視察研修、講演会の3つまとめて、アドバイザーからお願いします。

アドバイザー／本日もよろしくお願いします。今日は2名です。残り2名は、事務所内のコロナの濃厚接触者だった関係で、大事を取ってオンライン参加としております。それでは、私からワークショップ、視察研修、講演会についてそれぞれ簡単に述べたいと思います。ワークショップはたくさんご参加いただきありがとうございました。思わぬ再会というお話もあり、うれしいことでした。まだ初回なので長い目で見ていただきたいのですが、この取組みを通して情報発信できる形を整えていきたいと思っています。図書館のお知らせも出るようになっていきます。これまでは町民の皆さんのお力でやっていたことですが、町の方もスタッフ体制を整えて刊行できるようになっている状況です。ここに町民の皆さんの声がどんどん載るようになればいいのかなと思います。特に、図書館講演会や視察研修の皆さんのご感想が記録としてきちんと載って、発信され、伝わっていく。そういうことの準備になればいいなと思います。次回も、スライド資料の文字を大きくするという点も含め、対応して参りたいと思います。視察研修に関しては、どこも近隣の定評があるところだったので、刺激を受けていただけたようで良かったと思います。同時に安心したのは、帰りに感想を聞いて、「どこもよかったけど、あれはあれ。益子は益子らしいものを探せばいい」と。「結城市はすばらしいけど、同じものが欲しいわけじゃないし、笠間もすばらしいけど、同じことをやりたいわけじゃなくて、うちはうちだ」とのお言葉があったのに感動しました。私たちも帰りの電車で少しその話をしたのですが、すごく大事なことだと思います。よそのものを参考にするのはいいんですが、あれと同じものをうちに欲しいと言ってしまうと、意味がないと思うんですね。この町だからこそそのものというところで皆さんの強い意志を感じられたのは本当に良かったと思いました。最後に講演会について。須賀川の元センター長、元整備室長である佐久間さんに来ていただいて、お話しいただきました。出られた方はお分かりだと思いますが、佐久間さんは熱い方なので、本当にああいう機会を持って良かったなと思います。ご本人も前日から入っていただいたのですが、この町を好きになっていただいて、またぜひ来たいとおっしゃっていただきました。最終的には後半の皆さんとのセッションがあったことがすごくよかったんだと思います。あの方とは長い付き合いですが、人として熱い方なので。前日も町内をご案内しましたが、一番楽しかったのは、町の皆さんと意気込みを語り合うことだったんじゃないかと思います。特に、佐久間さんは須賀川市の職員として日本中の方々に助けられたので、自分たちも恩を返していきたいと常々おっしゃっていただいていますので、今後もいい関係を作って、ご助力いただいたりご助言いただいたりしていけるといいなと思います。まだ

須賀川に行っていない、これから行こうという方には、ぜひ遠慮なく訪ねていってください。佐久間さんは本庁舎にお勤めですが、タイミングさえ合えば喜んでご対応してくださると思います。物おじせず、益子の者だと訪ねていただければ、一瞬でもとても喜んでくださると思います。こういう関係を通して、自治体同士の関係が深まっていくことは、先々災害があったときなどにとても大切な関係になるので、大事にしていいただければと思います。以上です。

委員長／続けてお願いします。

アドバイザー／本日もよろしく申し上げます。ご報告のあった3つについて述べさせていただきます。まずワークショップについては、参加していないのでどうとは言えないのですが、ふと思ったのは、基本的に県内の市町村の情報を手に入れようと思ったときは、下野新聞とか、全国紙の地方版を見えています。でも、もっと細かい話題となると、なかなか見えてきません。私はグルメを探して食べに行くのが好きなのですが、足利市のNPOで足利経済新聞というメディアを出している方が知合いにいます。足利市のどの町のお店が何周年だとかオープンしたとか、下野新聞では取り上げられない、取り上げたくても紙面の関係上ピックアップすることができない情報を細かく追われています。私もそれを見て行ってみようと思うことがままあります。ワークショップの取組みで、益子の情報を発信していくなら、ここが最強というくらいのもので作られていくといいなと思いました。視察研修はお邪魔させていただきました。一緒に帰ることはできませんでしたが。あれはあれ、これはこれということで、皆さんが益子らしさを常にお考えだなと思いました。3館を一度に見たのは初めてだったので、それぞれの色を感じておもしろかったと思います。いいものだからといって何も考えずに取り入れると、経験上、違和感を生じさせることがままあります。そういう場合は検討段階で没になることも多いのですが。講演会については、交流会には仕事の都合で出られず、佐久間さんのお話だけ伺いました。何年も携わられたということもあるのですが、下に任せて成果だけ受け取るという方では全くない。自分でご苦労もされて取り組まれ、あれだけのものを作られた。本物だと思いました。うちのボスがどうだというわけではないのですが。図書館の館長は1~2年で変わってしまうことが多く、自分の言葉で語るには年数が少ないのかと思います。佐久間さんのように長い間一つのチームを率いられた例は、地方役人としては珍しいのかと思います。それはさておき、本当に熱い方で、ご自身の言葉で須賀川のことなど聞けたのは幸せだったと思います。以上です。

委員長／ありがとうございました。それでは、益子町図書館基本計画の案ができて、皆様のお手元にあるかと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局／それでは、説明に入ります。まず、基本計画の案と、「書架計画について」という資料の二つをもとに説明させていただきますので、そちらのご用意をお願いします。後半の議論の時間を確保するために、ざっくりした説明になってしまいますが、「はじめに」というところからお願いします。「はじめに」では、図書館の役割に触れ、図書館とはどういう場所になり得るのかを記して、これまでの流れについて説明する文章を書かせていただいています。次の第1章は、総合計画との整合性ということで、第3期まじこ未来計画において、図書館整備がどのような事業として捉えられて

いるかを図示しています。また、基本構想検討報告書や、第2期益子町子どもの読書活動推進計画について触れ、それぞれの計画と図書館基本計画のかかわりが図でわかるようになっています。次のページへお願いします。3ページ以降は、図書館の政策的意義について記述しています。社会の状況と、図書館の必要性、図書館に何ができるかというところにフォーカスを当てています。子どもの読書活動実態調査ということで、昨年、子どもの読書活動推進計画を立てるにあたって、町内の子どもたちの読書状況を調査した時の結果等を引用し、こういった活動を推し進めるために図書館が必要だということを述べています。第2章です。現状の課題として、図書館の施設規模と予算の2つを提起しています。図書室の規模は、配置図で示した通り、学習席とそれぞれの席が隣り合っていて、すべてのお客様が快く利用することが難しいという課題があります。また、書架がいっぱいで、本を買っても納められない。予算を増やしても棚がいっぱいだという2つの課題があります。6ページ下の表では、図書館整備にあたり参考とする数値を挙げています。町の人口規模から考えられる図書館の規模はこれくらいだという数字が記されています。この2つの表ですが、左が日本図書館協会、右がかつて文部科学省が出していた基準に基づく数値です。これは現代の図書館における蔵書の考えとは必ずしも一致していないと考えられます。これについては後に触れていますので、割愛いたします。7ページをお願いします。県内の図書館の資料費と、右は人口一人当たりで換算した時の資料費を表にまとめました。益子は25位です。新しい図書館になったとき、どれくらいの資料費が必要なのか、今後議論するところかと思えます。第3章に入ります。益子町の図書館、ここでは図書館等複合施設と書かせていただきましたが、そのコンセプトとイメージについてです。基本構想から引き継いだ基本理念と4つの基本方針、これを実現する課題解決型図書館という概念と、より包括的に、すべての住民に利用される公共空間としての訴求力をもった概念として、第三の居場所としての図書館という概念が述べられています。次の10ページでは、それらの概念をどういった形で、益子町図書館のあるべき姿として描き出せるかという構成になっています。ただ、この概要自体がざっくりしていることもあって、こういった考えがまだ足りていないのではないかというご意見もあるかと思えます。次の議論の中で皆さんのご意見を聞かせていただく必要があるかと思えますので、よろしく願いいたします。次の11ページの「図書館を利用する住民の姿」も、仮に「乳幼児・保護者」「児童・生徒」「一般町民」の項目を置かせていただいて、文章は入れていません。こういった年代の方にはこういう利用をしてほしいという皆さんのご意見をいただき、その姿を具現化するために施設に必要なものは何かを考えてから、あらためてこちらに記載していきたいと思えます。まだ急ごしらえの未完成なものなので、今後短い期間ではありますが、議論を深める中で完成に近づけていきたいと考えています。第4章、複合施設の建設予定地ですが、どのような観点から候補地を決定したのか、費用はいくらか、活用できる補助金は何かといったことを説明しています。章を飛ばしまして、19ページ、第8章をご覧ください。書架計画は、7万冊を想定した表を作らせていただいています。7万冊が適当かどうかにも議論があるかと思えます。先ほど6ページで示した基準では概ね8万冊前後だったかと思えますが、図書館を巡る社会的状況や、資料の形態が非常に変わっていく中で、何冊が益子町にとっ

て望ましいのか。また、本以外の別の形、ネットワーク情報資源についても検討を深めていく必要があるのではないかと。また、当初冊数の数値のみが大事なのではなく、継続的に資料費を確保していく、蔵書の新鮮度が大事なのではないかとということもあります。今回は一例として示させていただきましたが、今後の流れによっては具体的数値は入れない方がいいのではないかとという点でも議論の余地があるかと思えます。あまりに計画の中で数値を固めてしまうことによって、設計上の制約になりかねないというご指摘もアドバイザーからいただいています。皆さんとも、蔵書は何冊くらいがいいのかも含めて議論していく必要があると思えます。この数値をどのように出したかについて、「書架計画について」という資料をご覧ください。書架の高さと通路の広さが面積を決定づける要素です。それと、何万冊の蔵書を確保していくかというところですね。想定している書架の横幅を90cm、奥行25cm、高さ25cm、A4のサイズを考えているのですが、それで1冊当たりの幅が平均3cmとしたとき、30冊入る計算です。次に「書架計画について2」をご覧ください。一般の書架を5段と想定して、1段が25cmなので、5段だと125cmの高さになります。あまり高すぎますと、女性の方が取りづらかったりとか、視界が遮られて、防犯上の観点からもよくなかったり、圧迫感も感じるかというところで、5段を想定しています。そうすると、1段あたり30冊が5段で150冊で、両面書架で表裏両方に本を入れると、背中合わせて300冊入ります。「書架計画について3」に移ります。通路幅は130cmを想定しています。車いすと人がすれ違い可能な幅と考えて決定しました。書架と通路幅合わせて180cmで、 $1.8 \times 0.9 = 1.62 \text{ m}^2$ という式を記載しておりますが、この 1.62 m^2 を基に、 $300 \text{ 冊} \div 1.62 \text{ m}^2$ で、185冊/ m^2 と考えられます。3万冊を収蔵する場合、 $3 \text{ 万冊} \div 185 \text{ 冊} / \text{m}^2$ で162 m^2 必要となります。ただ、この162という数値は、棚と、棚の間の通路の面積だけです。実際の図書館の開架部分はこの2つだけでは成り立ちません。最後の「書架計画について5」ですが、考え方として、蔵書数の内2割は貸出中と考えて0.8、貸出係数というものを掛けます。それから通路等余裕度で2を掛けるのは、別の町のやり方を参考にしたものです。こう考えた場合には、開架だけで260 m^2 必要ということになります。これを19ページ上の表の一般書にあてはめると、259.46 m^2 という数字が出てきます。児童書については、時間の関係もありますし、冗長にもなりますので詳しくは省きますが、書架を4段、絵本については3段と考えて計算しました。以上です。

事務局／続きまして、私から説明させていただきます。資料戻りまして、13ページをご覧ください。

「第5章 図書館等複合施設の基本的な機能」でございます。本日は第3章まで策定委員会の中で詳しく決めていきたいと思えます。次回以降に図書館以外の複合的なものはどういったものが必要なのか、その辺りのご意見を聞いてから、13ページを記載していきます。そのため、現時点ではまだ空欄となっております。続きまして、14ページをご覧ください。「第6章 施設計画」でございます。「1 施設規模」ですが、敷地の方が、益子町役場周辺土地区画整理地内と決まりました。こちらの面積が約5,000 m^2 です。こちらにつきましては、土地計画組合と調整をしております。正式な数字はまだ確定しておりません。5,000 m^2 弱の土地を確保できるのではないかとということ、このように記載させていただいております。今後、組合との調整が必要なところでございます。次

に、「(2)延床面積」でございます。まず、合計延床が2,300㎡程度、これは最大限の数値と考えています。総事業費15億円でご説明してきましたが、(3)のように設計代、土地購入代、建物工事、外構工事、備品購入、机やイスなどもすべて含めての金額となります。そこから逆算して、建物だけにかかる金額を試算していきますと、概ね最大2,300㎡程度と考え、このように記載させていただいております。今回は、ふみの森もてぎさんの資料や、栃木県公共図書館協会が作っている資料、会議次第最後のページにつけた公共図書館を含む複合施設等の建築事例を記載した資料を参考に、施設規模によっても違いますが、平均すると、大体坪単価150万程度と見込んで試算しています。2,300㎡を上限として、うち図書館機能は1,500㎡程度と、事務局で検討しているところでございます。続きまして、15ページをご覧ください。1,500㎡の図書館機能に関しての内訳です。先ほど事務局から説明した内容と整合性を図りながら、開架スペースが800㎡程度、閉架スペースが200㎡程度、学習スペースが200㎡程度、事務・管理スペースが100㎡程度、その他のボランティア作業室や準備室などが200㎡程度、合計1,500㎡程度ということで、提案させていただいているところでございます。この数字につきましても、皆様のご意見を聞きながら、図書館をもう少し広くとか、狭くとか、ご意見をお伺いしながら決定していきたいと思っております。(2)、(3)につきましては、先ほども申し上げた通り、次回の検討委員会で図書館機能以外の部分、カフェやホール等、何の機能が必要になってくるのかを皆さんで検討していきたいと思っております。次に17ページをご覧ください。こちらは施設の配置ということで、まだ平面図は決まっておられません。こちらは設計段階で決定していきたいと思っております。続きまして18ページ、「第7章 管理計画」でございます。複合施設全体の運営体制は、建設計画と並行して検討を進めます。図書館機能とそれ以外の機能を、それぞれ管理運営だけでなく、多彩な町民活動を育み、町中の賑わいを創出する中核施設としての機能を十分に発揮する運営体制を目指していきたいと思っております。休館日も、今後検討委員会の皆さんと検討していきたいのですが、たたき台としましては、こちらの中央公民館と同じ毎週月曜日という形で案を作らせていただきました。それ以外にも、資料整理日、年末年始、特別整理期間といった休館日を設ける案でございます。(3)の開館時間につきましても、県内の状況、現在の益子町図書室の状況を鑑みて午前9時から午後7時までとしているのですが、この辺も皆さんと協議して決めていきたいと思っております。2の図書館機能につきましては、運営体制と蔵書構成はこちらに記載させていただいている通りでございます。それから、19ページをご覧ください。こちらについては、先ほど事務局から説明した通りでございます。20ページは整備スケジュールということで、今まで示している通りです。今現在、基本計画がありまして、基本設計、実施設計、建設工事。そして令和7年度に外構工事、備品購入をいたしまして、令和7年度内の供用開始を目指していきたいと、最後までとめているところでございます。その他に、参考資料としまして、委員名簿、アンケート結果、ワークショップの様子、先進地視察の様子などを載せて最終完成としたいと思っております。本日は、先ほど申し上げた通り、図書館機能の部分を中心に、特に11ページまでを、今日ある程度、委員会の中で審議させていただきたいと思っております。次回以降につきましては、私が説明した図書館以外の機能の部分、どうい

ったものを作ると、皆さんにとって居心地のいい図書館になるかを検討していきたいと思いたすので、よろしくお願いいたします。早口になりましたが、以上です。

委員長／それでは、説明がありました図書館基本計画案について、今日は11ページまで決めればよろしいですか。

事務局／今日は全体的なところと、後は11ページまでです。

委員／今日はこれを具体的に決定したいというお話でしょうか。資料は送られてきましたが、これを決定するからちゃんと読んで来いとは言われなかったので、資料が届いたな、間に合うように行かなくちゃ程度にしか読み込んでいません。事務局で作ったときにここは悩んだけどこういうふうに表示したとか、まずはこの案を理解するところから始めないと、このままでは、なんとなく一生懸命作ったんだからいいかと拍手して終わってしまう。益子ならではの部分が、ざっと聞いた感じでは私にはあまり見えてきません。先ほど、笠間市にも益子の人が借りに行っている。今、30億円以上のお金をかけて真岡市にも大きな図書館を作ろうとしている。それとの差別化がどうなっているのか、私には見えていないんですね。益子ならではの部分をどこに持っていくのかという議論がまだ尽くされていないような気がします。計画を作らないといけないからこういう文にしました。これでいいですか？というの少し違うような気がしました。以上です。

委員長／ご意見ありがとうございます。

事務局／意見がありましたように、案について駆け足で説明を済ませてしまったところがありますので、担当に悩んだところや工夫した点のポイントを説明させます。お聞きください。

事務局／「はじめに」の部分ですが、なぜ図書館を作るのかという疑問が一般の方からまずありました。たとえば、「図書館なんか作っても、本なんて読まない」という話をよく聞きました。「インターネットで十分だ」とか。そういった世の中の流れの中で、図書館はこういう役割を果たすのだということを書いていただいています。同じ考えが、次の「図書館の政策的意義」のところでも続いていまして、ギガスクール構想が始まったところであったり、政府が2030年までに目指しているソサエティ5.0という考え方だったり、ハイテク化が進んでいる世の中で、図書館はいるのだろうかという疑問に対して、こういう理由でいるのだという回答になっています。生涯学習、社会教育の潮流を見ながらの考えを書かせていただいています。その辺りに関しては、益子町というより、日本全体の流れかと思えます。飛びまして、第3章が益子町ならではの部分が最も出されるべきところと思えます。ご指摘にありました通り、確かに益子ならではの部分について議論が尽くされていないという現状もあり、最低限度、社会教育の機関として、生涯学習施設として、こういう機能があるべきだということになっています。益子らしさが押し出せていないというのはご指摘のとおりです。担当してというより、益子町を思う一町民としてですが、図書館がなぜ必要かは、自分たちの町の図書館があることで、こうなってほしいという思いを書かせていただいています。益子らしさが足りていないというご指摘はごもっともだと、担当者としても感じるところです。では、何が足りないかを、この場でもう少し深めさせていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

委員／先ほどのご指摘の件は、11ページの住民の姿をこの場で意見を出してほしいというお話でいいでしょうか。もしかしたら、この資料をいただいたときに、こういうことを考えてきて発表してほしいという案内があれば、それなりに考えられたのでは。目は通してきましたが、この場でそういうことを必要とされるというのがわからなかったんですね。集まってその場その場で意見を聞いて、それをまとめますというのはちょっと違うのかなという気がしました。

委員長／ありがとうございます。

事務局／文章で表現するのが難しく、案だけ送らせていただいたので、今日の内容がわからず、申し訳ありません。今日は通して説明させていただいて、第3章、11ページまで話し合いたいと思います。第5章まで対象にするとまとまらないと思いますので。次回以降は、13ページ以降、図書館以外の機能について検討していただきたいと思います。ご案内の中で、その辺りの説明があればよかったかもしれません。今日は11ページまで読み込んでご意見いただければ。それを受けて修正して、次回見ていただいて修正するという繰り返しになります。先ほど、決定と言いましたが、まだ何回か会議があります。遅くとも1週間前までに修正案をお送りして、皆さんには見ていただいた上で策定委員会に臨んでいただく形にしたいと思っています。今日意見は言えないとはおっしゃらずに。9～10ページが益子らしさを表現したところですが、もちろんこれだけではまかなえていないところがあります。文字ばかりで見づらいところも多々あります。図を加えるなど、進化させていきたいと考えています。11ページまで、この点を入れればもっと益子らしくなるなど、ご意見をいただければと思います。

委員長／わかりました。今日、ご意見をいただいて、問題のあるところなど検討して、次回に修正案を提示するというところでよろしいですか。今回結論を出すのではなく、ご意見をいただいて、次回それを基に検討して、よりよいものにしていくということですね。

委員／理解しました。それで意見が出しやすくなると思います。今まで積み上げてきたキーワードがあったと思います。益子の図書館はこういう図書館だと。まとめていただいたものは総括的です。すべての人に、すべてのサービスと。どこに特徴があるのかよくわからない。仕方ないところもあると思いますが。栃木県25市町にそれぞれ図書館がある。益子はここに力を入れた図書館だということが一言で言えるようになれば、みんながイメージしやすい。みんながそこに向けてどういうことを盛り込んでいこうとなる。今までワークショップなどやって来た中で、これが益子らしいとつかんでいるものがあればご紹介いただきたい。アドバイザーからも、益子らしさの意識が強いのはすごいとほめていただいたので、何が益子らしいかという部分を言葉で出してほしい。そういうヒントとか刺激をいただかないと。「益子ならではの価値を再発見し」とあるが、益子焼のことしか書いていない。益子焼の図書館を作っても一般の人は使わないだろう。みんなの共通認識で、こういう図書館を作ろうというのをこの委員会で用意できれば、より具体的に意欲をもって取り組めるのではないのでしょうか。

委員長／そうですね。できるだけ皆さんに意見を出していただき、よりよいものにできればと思うのですが。

委員／たとえば極端な話、子どもは対象としない図書館が益子には必要だというなら、それでもいい。二十歳の青年向けに作るなら、それでもいい。益子ならではのものをもっと出したらどうかなと思います。アドバイザーからも、これまでの付き合いで、これが益子ならではの感じるものがあれば伝えていただければ、力強く前に進めると思います。私の中で、益子らしさがイメージできていない。ここまで参加した中で、益子らしさをどう打ち出していくのがいいのか。先ほども言いましたが、真岡市では30億、40億かけて作るわけですよ。普通に考えれば、真岡市の方が魅力的なものができると思います。でも、真岡市の図書館の情報はここでは一切提供されませんね。

アドバイザー／では、第三者的な外部の目から見て、ここが益子らしいというところをご紹介します。まず9ページをご覧ください。「益子町図書館のあるべき姿」とあります。ここにはワークショップでやって来たことが強く反映されていると思います。「～しやすい」というのは委員会での議論やワークショップの検討でも顕著に出た話だと思います。これは珍しい切り口です。誰を主語にしているかが重要なのです。このような計画では、行政や図書館が主語になりがちです。「図書館が～をします」「住民の皆さんに～を提供します」のように。でも、「～しやすい」は、明らかに町民が主語です。これは、小さいことに見えて重要なことです。利用者側の目線に立った設計、デザインの意識がすごく強く出ています。これが出てくること自体、益子らしさだと思います。住民主体で物事が発想されるようになっていく。役場がそういう目線を持っているということですね。自治体によっては、役場が主語でしか考えられない文化になってしまっているところが多いことを考えると、この部分は益子らしさが地味に、しかしかなり重要な点で出ていると思います。益子らしさがより出てくるのは2番目の点で、ここは少し議論をいただきたいところでもあります。課題解決支援として益子の基幹産業に関する資料を収集するとあります。では、この基幹産業とは何かということころは、議論が必要かと思います。実は、今日は午後からの会議だったので、朝早くから来て、炎天下の中1時間であきらめたんですけど、城内坂など見て歩きました。確かに焼物なんですけど、1軒1軒の店を見ていくと、焼物だけを扱っているわけではなく、セレクトショップ的装いのところもあれば、民藝に注目しているところもあり、この点こそ益子だと改めて感じました。同時に、観光地としての面もある。この状況下でも11時半に開店した店に行列ができていますのはすごいことだと思います。どのように益子の産業とか地域の特性を規定するかというあたりは、少し深掘りしていただきたいと思っています。個人的には、益子は金沢文庫や足利学校と並び称された文庫があったとされているので、そういった歴史ですね。中世の文化の拠点だったんじゃないかと。ここまでバスに乗って来た時も、「京塚」というバス停がありました。これはおそらく、経塚、お経を納めるところがあったんだろうなと。経塚があるところは、大体中世以降に栄えている場所なんです。そういった文化性にもう少し掘りこんで、益子の歴史、文化は何かということころが欲しいかなと思います。3点目はやはり益子焼に関わる場所だと思います。もう少し具体的に検証するなら何かという話ですね。次の「すべての地区に図書館サービスを」は、図書館界では一般的に全域サービスと言っていますが、全域サービスに対する考え方をかなり強く打ち出しています。正直、最近では珍しいと思います。合併自治体に多く見られるのですが、合併した周辺部は基本的に行政サービスの対

象から切り離すことが露骨に政策的に取られています。県内の自治体でもそうです。そうはしない、というのが独立自治体を貫いている益子らしさだと思っています。この部分に関しては、すべての地区と言っても、移動図書館車の巡回だけでいいのか、他にもっとできるのではないかといいところがあります。また、移動図書館車が来るとはいつても、新しい施設に行きたい。でも、車の運転に不安がある。どうしたらアクセスできるかを考えてほしいということを高齢の方からご意見いただいています。そういうアクセスの問題にも関わってくると思います。最後に、学校図書館支援、「すべての子どもたちに本を手渡す」というところです。これは全域サービスにも大きくかかわってきます。少なくとも小学生に関しては、以前のアンケート分析結果からも明らかなように、自分の力で図書館に来るという選択肢はないんですね。親御さんも、どうやって連れていくかということ意識している。子どもを図書館につれていこうという親御さんがいらっしゃればいいですけど、すべての子どもが環境に恵まれているわけではありません。そう考えると、子どもに本を手渡すのに一番いいのは学校を活用することです。学校図書館とどういう連携を進めていくかという点で、益子らしさが出せると思います。なぜなら、学校に関しては、小さい自治体の方が小回りが利きます。宇都宮市も頑張っていますが、大都市になると難しい。それに比べて益子は、担当者が学校の中をつかめている。子どもたちの顔がわかっているのも、その強みを生かしていくのが大事だと思います。ただ、もう少し論点を深めるとしたら、学校だけでいいのかという問題があると思います。小学生になってからという考え方でいいのか。幼稚園や保育園、認定こども園、もっと早い段階から必要ではないかということは十分論点たり得ます。また、教育委員会の方には恐縮ですが、すべての子どもが学校教育になじめるわけではない。学校に行けないお子さんもいらっしゃる。でも、その子たちも大事な地域の担い手です。その子たちも排除しないようにということも論点としてあっていいのではないかと思います。ここまで振り返ると、まだまだ多様な論点があります。事務局としても、まずは概要をお示しして、皆さんに気になる点を引き出していただき、具体的なサービスを提案していくところではないかと思います。以上です。

委員長／ありがとうございます。

委員／経塚の話が出ましたが、圓通寺の住職が写経に通ったという由来があります。この案は、最終決定日が決まっているんですね。ここで練って議会で決めるんですか。

事務局／ここで案を出し、一般町民の皆さんのご意見を聞きます。それから、議員の皆さんのご意見も聞きまして、庁舎内の幹部会議にも諮ります。最後にこちらで了承を得て、庁議で決定になります。

委員／この委員会にはタイムスケジュールがないんですね。何かイベントをやるなら、実行委員会のタイムスケジュールがあって、いつまでに何をやるという目標設定がないと。毎回何をやるかわからない感じになっている。今回の会議では何をやるというタイムスケジュールで目標設定をしていかないと、グダグダで終わってしまう。共通認識でそれがあれば、ある程度の準備もできる。近々にそれを一覧で出してほしい。議会がいつで、建設にはいつ着工という目標があった方がいいのではないのでしょうか。

事務局／以前にも会議でお示したのですが。

委員／一覧表があればわかりやすい。

事務局／前回の会議で全体のスケジュールを提示して、予定が遅れるとご説明しましたが、具体的な話し合う内容までは書いていませんでした。申し訳ありません。次回までにわかりやすく追記しておきます。前回の資料では、今日7月20日が第5回委員会。次回は8月27日金曜日、第6回策定委員会があります。今日、11 ページまでを重点的に検討し、次回その振り返りをやります。次回以降、図書館以外の機能についても詰めていきます。その次は10月5日火曜日、第7回委員会では、今日やったことの修正があれば報告して、8月の図書館以外の機能の部分の振り返りをやって、ある程度の素案を作ります。11月にはパブリックコメントを受け、住民からご意見をいただきます。それを受けて、11月30日火曜日、第8回委員会で計画案ができあがります。その後、町の部課長会議や、年明け早々の教育委員会を経て、最終決定の庁議が2月になります。3月には、基本計画完成報告会というスケジュールで組んでおります。皆様には、11月30日までのスケジュールをすでにお示ししていましたが、より細かいスケジュールを次回までにお示しします。

委員／サードプレイスというキーワードがある。私のイメージでは、学校と家庭、その間にサードプレイスという、子どもたちのイメージが強い。学童保育がまさにそう。家庭と学校の間で、家庭的な雰囲気もありながら、みんなで集団活動をするのを意識しながら運営しています。以前のワークショップで、図書館の隣に学童保育を作れば、1年生の7~8割が学童保育を利用している時代なので、簡単に居場所が作れるでは、という話をしたこともあります。この案では、誰にでもサードプレイスが必要だと読める。どのような使い方をしているのでしょうか。

事務局／総合計画にもサードプレイスとあります。子どもも含めて、すべての町民を対象とするサードプレイスです。もちろん、子どもにとって図書館がサードプレイス、居場所としての機能を果たすと思います。一般の町民の方々にとってもサードプレイスとなりえます。ワークショップでも居心地のいい図書館、1日中いれる図書館が一つのテーマとして挙がっています。図書館は誰にでも開かれていて、フラットな関係性が形成されやすい場所として、サードプレイスになりうる可能性がある施設です。

委員／簡単に言うと、サラリーマンにとってファーストプレイスはどこで、セカンドプレイスはどこかということ。子どもには学校と家庭があって、第3番目の居場所というのはわかるんだけど、サラリーマンや、家庭で過ごしているおじいちゃん、おばあちゃんにとってどういう意味でサードなのか。

事務局／それに関しては、家と職場が第1と第2、第3の居場所として、それ以外のどこかとなります。もともとサードプレイスという概念が提起されたのが、社会学の書籍『サードプレイス』です。イギリスのパブの機能に着目した言葉です。パブはふらっと寄ってくつろぐ、すぐに家に帰りたくない人の息抜きの場です。本来の自分になれる場所というのがサードプレイスと、私は定義しています。図書館をそういう場所にするのが、益子町の試みです。

委員／だとすると、サードプレイスという言葉じゃない方がいいかもしれない。違うイメージを持つ人もいる。

事務局／図書館が子どもの居場所になるというところで、夏休み明けに自殺する子どもが多いので、「居場所がないなら、死ぬんじゃなくて図書館においでよ」と司書がツイートしたのがTwitterで話題になったことがありました。学校に居場所がない子どもの話が先ほどありましたが、図書館が子どもたちの居場所たり得るのは確かなことです。町が述べているサードプレイスは子どもだけの話ではないということは、しっかり書くべきかと思います。あるいは、子どもの場所と明確に打ち出すのとは別に、サードプレイスとはこういうものだと、しっかり記す必要があるのかなと思いました。

委員／先ほどアドバイザーからご指摘を受けた益子らしい点についてはなるほど、と思ったが、当たり前だという気もする。全然珍しくはない、別に益子の特徴じゃないんだけど、という感じがする。益子らしさをもっと出せないものでしょうか。無責任な発言でごめんなさい。

委員長／少し休憩して、考えをまとめて出していadakimashou。今のままではなかなかご意見が出ないので。10分くらい休憩しましょう。45分まで休憩して再開します。

(休憩)

委員長／よろしいでしょうか。時間になりましたので、後半の話し合いを進めたいと思います。町の未来計画の中で図書館についても触れています。7月の広報ましこでも、大規模事業ということで、図書館整備計画の予定表が出ています。令和3年に基本計画を策定し、7年に供用開始ということで。ご覧になりましたか？一般の方も、こういうものを見て図書館計画については理解しておられると思うのですが。益子町に図書館を作る方向で進んでいるということは。残念ながら、回覧を回しても知らないという方もいらっしゃいます。見ていないですという方も。そういう意味では広報は大事だなと思います。多くの方に知っていただかないと、計画が進んでも問題が出てくると思います。そういうことのないよう、策定委員会でも実現に向けて確かな計画を立てていきたいと思えます。いろいろご意見がりましたが、基本計画案の8ページ、基本方針の理念の下に、益子ならではの図書館のあるべき姿ということで、9ページ、10ページ辺りを主に話し合っただけだったと思いますが、いかがでしょうか。事務局にお願いですが、前回の委員会の議事録がありますよね。始まる前に、前回の会議内容がわかるものを出していただければ、話がつながると思います。

事務局／益子町のホームページに「ましこの図書」というバナーがあります。そこから辿ると、委員会の議事録や視察の報告等、今日明日は無理ですが、数週間後、次回の委員会の前までにはアップしますので、お手数をおかけしますが、委員の皆さんにはそちらをご覧いただくと。議事録の他、ワークショップの報告等もありますので、委員会の前にご覧になってからご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

委員長／ホームページに「益子の図書」という項目があるそうですが、ご覧になった方はいますか？できるだけ見ていただいて、どんな状況か気にかけていただければと思います。

事務局／ホームページの右下の方に「ましこ花のまちづくり」とか「空き家・空き地」とかありますが、その下に「ましこの図書」という黄色いバナーがないですか。パソコン版にしないと出てこないですか。申し訳ないです。携帯からだ、一番下まで見ていただいて「スマートフォン版」と「パソコン

版」というリンクがあるので、そこを押していただかないといけませんね。「パソコン版」を開いていただくと、右下に「ましこの図書」という黄色いバナーがあります。そこを押していただくと、「新図書館の整備について」というページになります。その下の方に、関連ページで「基本計画策定委員会」とか、いろいろメニューがあるので、そこを開いていくと、議事録等いろいろ出てきます。例えば、「令和2年11月 益子町図書館基本計画策定委員会設置」を押すと、策定委員会のページに飛びます。委員会の写真を載せたり、どういうことを話し合ったかを載せている議事録が一番下の方にあります。第4回議事録のところに前回の議事録があります。今日明日中には無理ですが、次回までには今日の記録も載せます。随時、こういうものを更新させていただいています。

委員長／9ページでご意見ありましたら、よろしくお願いします。

委員／6年前に外から来たので、益子らしさという、やはり文化だと思います。場所はアクセスも良くないし、大きな店も文化的施設もない。水戸の美術館が好きでよく行くのですが、そこと比べてはいけないと思うのですが。益子という、他の離れた場所よりは文化の香りをを感じるなどと思って来ました。でも、文化だと幅が広すぎて捉えどころがないので、結局益子らしさとは何だということに近づけるかわからないのですが。同時に、人によるとは思いますが、益子の人にはやりたいことをやればいいという大らかな空気を感じます。子どもが七井小で、七井小はそうでもないんですが、益子小の子どもたちは小学生でもスマホを持っていて、LINEで友だちとやり取りをするのが普通みたいです。そういう「やりたいことをやればいい」という開放的なところも益子らしさだと思っています。益子ならではのものは、里山や益子焼など、キーワードはいろいろありますが、それは蔵書を増やしていくうちに蔵書構成に反映されるものかと思います。司書が企画展示をしたり、町民と共に視点を深めていくことをやっていけば、自然にできていくのでは。ここで益子らしさが出ないのは、そんなに簡単に出来るものではないのかなと思っています。案の中に学習室のスペースについて書かれていましたが、学習室がいるのかということもまだ議論されていません。白河市図書館は、学習室を作らないという館長のお話で、潔いなと思いました。私自身は学習室を使ったことがないので、必要なかどうか、個人的には判断できなくて、検討してみてもいいのではと思います。また、ずっと前にスウェーデンの図書館の本を読んだときに、そこではゲームもOKだと書いてありました。ゲームや飲食はOKなのか、「開放的」をキーワードにするなら、そこも考えていいのではないかと思いました。それから、後ろの方で児童書と絵本合わせて4万冊、一般書は3万冊とありました。一般書は閉架にもあるのですが、子どもの本を充実させてくれるんだなと思いました。その内訳が一般的な図書館ではどうなのかわからないし、その説明もあれば有難いと思います。それから、「すべての地区に図書館サービスを」というところで、移動図書館車の運行について書かれています。もし私が自分で行けなくなったら、移動図書館車が来てくれたらうれしいですが、うちは七井ですが、もしあぐり館にしか移動図書館車が来なかったら、遠すぎて意味がない。行けないことに変わりありません。デマンドタクシーとか、図書館に行きたい人が行けるような方法もここに書いてほしいと思いました。もう一つ、今、うちの子も学童に通っているのですが、学童の本もめちゃくちゃで、低学年用の本棚に高学年の本が入っていたり、高学年用の本棚に小

さい子向けの本が入っていたりします。棚がめちゃくちゃなのが残念なので、学校以外の子どもが関わる場所まで目が行き届くとよりいいのではないかと思います。

委員長／ありがとうございます。益子らしい大らかさ、開放的。何か、益子ならではの、他の図書館にないようなもの。

委員／益子らしいという話で思うのは、海外に行った際、サルデーニャ島にいました。プライベートジェットやヘリやヨットを持つような各国のセレブが集まるところでした。僕が働いていた店にも、アラブ系の王族が来たりしました。そのお店がある辺りはアーティストの村と言われていて、それでセレブが来ていたんです。アーティストの村とは言われていて、働いていたお店のオーナーもアーティストだったんですが、そこに住んでいるアーティストの数は少ないんですよ。30~40人くらいだったと思います。それでもアーティストの村と言われていた。それで、「あなたが住んでいたのはどんなところ？日本人は珍しいね」と聞かれて、日本の益子から来た、益子には焼物だけで500人以上の作家が住んでいるという話をすると、ものすごく驚かれました。一つの町に500人以上もそういうことをやっている人がいるんだと。他の焼物産地もありますが、技法や形式が決まっているのが一般的で、徒弟制度があったりする。それに対して益子町は、多様な作品を個々が生み出して、独自にそれぞれ販売経路を持って、全部自分でオーガナイズしてやっている。その独自性に、圧倒的にまわりと違うところがあります。ホテルのランク付けて、5つ星の上にルッソというのがスイスやイタリアにあるんですが、そこでコンシェルジュをしていた友達が益子に遊びに来て一緒にあちこち見て回った時、「ここはすごい。こんなところを見たことがない」と言っていました。少なくともイタリアにはないと断言して、「ここと交流できるようなことを個人的にやりたい」と言って帰っていきました。今も連絡を取っていますが。内側の人間が自分たちが住んでいるのはこういうところだということを出すのももちろん大切なんですが、外の人間がここを見て異質に見えるのはどこかということ、クリエイティブな人間が自分の手で全部やって食べていける場所。それも、持続的に歴史を持ってやっていけている。そこに特異性があるんだと感じています。それを図書館に落とし込むには、今、そういうことをやっている人間がこの場所に生きているということをもっとちゃんと外に見せたり、背景をもって感じさせたりするような設備、システムを組み込むことで、前から言っている生きた風土資料、成長できる郷土資料を生み出せる機能を持たせることで、訪れた人がここにはこういう作家がいて、こういう思想を持ってやっていて、今こういう人がいて、将来はこういう人が出てくるかもしれないと考えられるような資料がある場所になっていったら、素晴らしいものになるんじゃないかと思います。同時に、日本語だけでなく、多言語で対応して、海外に向けて発信できるような情報があるといいのかなと思います。

委員長／ありがとうございます。

委員／皆さんのいろんな話を聞きましたが、まず、基本計画案を形作っていただいただけでも、目安が分かって、先が見えてきたと感じます。反対派の人から真岡や宇都宮の図書館に行くから別にいらんという話をよく聞きます。行ける人はいいんですが、益子に作るという意味が重要で、この町の現状が第2章にとってもわかりやすくまとめられています。7ページなんか、こんなひどい状況な

のかと。資料費も最下位。これも図書室しかないという現状があるから。サードプレイスを単に子どもだけの第3の場所と判断してはいけない。大人だって、職業がある人なら、職場と、自宅と、第3の場所。それ以上の人なら、趣味の場所であり、自宅であり、第3の場所。人によってみんな違う感じ方ができる。私は第3の場所という言葉はいいと思う。補完的に移動図書館車という話もあったが、それは本を読むだけの場所。本を読むだけでなく、そこで過ごしたりする場所にできればいいと思う。益子ならではだと、当然益子焼だが、手作り関係の方も多し。また、他に比べて個人企業も多い。だから、起業するための資料とか。農業も多い。益子町の中で、農業をやっている人の割合は多い。ものを作って道の駅で売っている方も多し。書籍に関しては選んでおけばいいが、コーナーとしては、農業、窯業、手作り関係は益子町には絶対に必要だと思っています。9~10ページの話ということだが、説明を聞いてわかったところもあります。アドバイザーからわかりやすく説明していただいたので、皆さんも理解していただいたと思います。「~しやすい」ってそういうふうに見ていただいたんだなって感心して聞いていました。「益子ならでは」とは、表現しづらいところがありました。11ページの3つの姿が分かりやすいと思います。「乳幼児・保護者」、「児童・生徒」、「一般町民」とある中で、乳幼児がすごく重要だと思っています。児童・生徒は学校で本を読めるし、図書館に来れる子もいる。一般町民は来れる人と来れない人がいますが、デマンドタクシーを使ってでも行きたくなる場所にできれば最高だと思っています。人を育てるという意味では、乳幼児。子どものときに本を読んで身につけたものはとても重要だとよく聞きます。保護者が連れてきて絵本を読ませるのはすごく重要。子育てはすごく重要です。これから大人になっていく子どもたちが来やすい場所になればいいなと思います。

委員長／ありがとうございました。他にありますか。

委員／図書館見学の感想で「益子らしさを」と言っておきながら何も言わないのは無責任だと思ったので。「益子らしい」は漠然と話していて、具体的なものはありませんでした。9~10ページの「あるべき姿」を見て考えたときに、益子らしさは主には蔵書構成に行きつくんだと思います。大沢文庫とか、私もまだ知らなかったんですけど、益子焼とかの産業も大事だし、益子の窯業指導所もあるので、そういった人たちが参考になるような資料とか。陶芸家の方も多しなので、それがあっていいなと思うんですが、益子の土地としての歴史を知ることや、小宅古墳や円道寺周辺などに町の方々が花を植えていたり、百目鬼川をきれいにする活動をしていたりとかする。そういう益子でやっている自然や環境の活動を取り入れながら、益子の今と歴史がわかるものがあっていいなと思いました。「すべての地区に図書館サービスを」で、移動図書館車もいいのですが、私も図書館に行きたいかなと思います。子どももお年寄りも、図書館に行くことで、町の人やいつもの行動半径じゃ会えない人と自然に会える場所になり、そういう意味でもサードプレイスとしての良さがあると思います。タクシーでもいいのかもしれませんが、益子の中は車がないと動けない印象があります。歩いて移動できる環境ではないので、スーパーや益子町役場を周遊するバスが将来的にあつたらいいと思います。そうしたら、普段行けないところまで行けたりして、それが図書館と結びつくといいなと思いました。それから、学校支援機能について、以前の会議で話があつたお寺

のように学童保育と一緒にして、というのも夢があるなと思って聞いていました。小さい町ならではの、放課後は学童に関係して、益子町内の小学校や中学校、なんなら幼稚園もみんな一緒ということになれば、いろんな友だちができて、友だち関係で悩むこともなくなるのかなと。小さい町ならではの良さが益子の良さとして可能性が広がっていけばいいなと思いました。

委員／9ページにあるように、「通しやすい」「入りやすい」「借りやすい」「使いやすい」、この言葉がぴったり益子に当てはまると思うんです。例えば、起業家が多いとか、いろんなことを自由にやってみる場所、地域だと考えると、「～しやすい」という言葉が一番ぴったりくるなと感じていました。あと一つ、益子らしさを自分たちでどう考えるかと思ったときに、益子の図書館を、町から私たちに与えられるものだけではなくて、私たち町民がこの図書館を作ってもらったら、よりよい図書館にどう育てていくかを考えていかないといけない。私たち町民の力を入れて、図書館を育てていく組織が作れたらいいなと思いました。

委員／今まで「サードプレイス」という言葉に引っかかっていたんだなと思いました。「第3の場所」と言われると、「3番目の場所」という気がするんですよ。今皆さんが作ろうとしている図書館は、町民のファーストプレイスを作る。何がなんでもあの図書館に行きたい!と思うようなところを作るということなんだろうなと思いました。コンセプトとしてはファーストプレイス。「～しやすい」とか、1日過ごせるとか、くつろげるとか、朝起きたら図書館に行こうと、1日過ごして帰ってくる。家はどこかと言えば図書館だと言えるくらいの場所を目指そうということだと思いました。サードプレイスというのはくつろげる場所なんだろうが、第1、第2があつての第3の場所なので、目指すべきは第1の場所。町民の皆さんが第1の場所としてまず図書館に行こうと思うものを作りますと強く言えば、みんな、じゃあ第1の場所はどんなところだとなり、育てないといけないんですよ。第1の場所になってないじゃないかと、必ず言われますから。そうしたらいろんな人が関わってきて、結果としてハブになり、事業を起こす起点になると思います。目指すべきはファーストプレイスではないかと思いました。

委員長／ありがとうございました。確かに、誰もが一番、行って過ごしやすい、居やすい場所が図書館だとアピールするには強いですね。みんなが一番行きたい場所を作る、それが益子の図書館だと。そこに行けばなんでも与えてもらえる。それをどう対応していくか。誰が来ても、それぞれに応じて満足いくものを与えられる場所。そんな図書館。

委員／自分の家と同じ感覚で図書館を見てほしいということ。関わる人が自分の責任によってアクションを起こしてほしい。だから、委員長がおっしゃったのは、私のイメージとちょっと違う。何かを与えてくれる場所ではない。こちらが能動的にかかわる場所。家庭とはそういうもの。誰かが何かをしてくれるのではなく、自分が何をするか。そういう仕組みをうまく作っていくことを、皆さん目指しているのではないかと思いました。

委員長／それが他の図書館にはない、益子らしい図書館に繋がっていくのではという気がしますね。

委員／サードプレイスの話で、言葉に引っかかるというのは大事なところで、正しい議論だと思いま

す。サードプレイスとはオルデンバーグというアメリカの社会学者が問題提起として出した重要な言葉で、現代社会の中では大事にされています。これを書いた本の原題は『The Great Good Place』で、その中で第1の場所、第2の場所、第3の場所という議論を展開しているんです。日本語の理解が少しずれていて、3つ目の場所というところだけが少し注目されすぎている。大事なものは、第1、第2、第3の場所があって、人にとって大事なものは great な good な場所だというのが、そもそもの議論なんですね。そのためには、どういうことが大事なのか。例えば、そこにいることに心理的安心感があるとか、それこそ「～しやすい」というのは重要な要素だと訴えています。総合計画的にもサードプレイスというのは重視している考えなので、キーワードとしてこれを変えるのは難しいですが、注釈的に最初の場所や2番目の場所になってもいいと思います。これだけテレワークが盛んになると、図書館が勤務先だという方もいらっしゃる。益子なら確実に出ると思います。テレワークだから、毎日図書館に通勤しています。図書館が私の仕事場です。図書館はサードプレイスなんですが、ファーストプレイスになってもいいし、セカンドプレイスになってもいい。大事なものは、益子の町民にとって great で good な場所という理解にすると、皆さん納得しやすいのではないかと思います。今までの議論で鋭いなと思うのは、一つの場所をファーストかセカンドかサードかと分けてしまうと、人それぞれの見方でどうしてもずれが出てしまう。その方向性を少し是正すれば、皆さん腑に落ちるのかなという気がしました。

委員長／ありがとうございます。他にありましたら、お願いします。よろしいでしょうか。では、事務局で今日出た意見をまとめていただいて、次回提起をお願いします。次回は、8月27日。それまでに、今日の内容をまとめたものを皆さんのところにお送りします。少しでも基本計画が充実したものになるようにお願いしたいと思います。では、その他についてお願いします。

事務局／長時間ありがとうございました。時間も押してますので、(5)のその他と4のその他をまとめてご説明させていただきます。まず、カラーのA4をご覧ください。図書館だよりの第2号を7月に発行しました。5月に創刊号を発刊して、第2号が7月。第3号は9月の予定です。今回は、先ほどご説明した図書ページ始動ということで、「ましこの図書」というバナーを益子町のホームページに載せています。何度も言うようですが、今日の会議の議事録とか、すべて載せていますので、委員の皆さんにはお手数をおかけしますが、週に1回程度ご確認いただければ大変助かります。右側にいきまして、5月22日と6月の第4土曜日、読書の日、かたつむりの会のおはなし会ということで、初めて南運動公園や北公園で読み聞かせをしていただきました。第1回目の5月は雨に見舞われてしまいましたので、改善センターやあぐり館でやりましたが、6月は晴天に恵まれ、やることができました。7月はおたのしみ会、8月はましコッコハウスで開催予定となっております。また子ども向けですが、「図書室であそぼう」ということで企画し、多くの子どもたちにご参加いただいているところです。裏面は「あなたとつくる新しい図書館」ということで、委員会のご報告やワークショップのご報告をさせていただいております。また、イベント情報は終わってしまった情報もありますが、様々なイベントを図書室で企画していますので、ぜひご参加いただければと思います。よろしくをお願いします。A4 縦のチラシは、「“今”を伝える益子メディアづくり」ということで、前回のワー

クショップの続き、深掘り編になります。8月21日土曜日を予定していますが、最近またコロナが増えてきてしまっているため、状況を見ながら開催したいと思います。よろしくお願いします。中ほどには「図書室であそぼう」や「こわいおはなし会」など、様々なイベントのチラシを入れています。後でご覧いただければと思います。最後に、今回お配りした資料の中に県内の図書館の情報を載せています。児童書冊数の目安についてご質問がありましたが、他の図書館の児童書の冊数や来館者数、様々な情報が載っています。そちらもご覧いただき、次回の策定委員会の参考にいただければと思います。また、以前ふみの森もてぎさんにいただいた資料ですが、詳細な面積も載っています。益子でも参考になると思います。お時間があれば、茂木町にも一度見に行ってください、特に12ページに敷地条件概要図、13～14ページに1階、2階の平面案内図が載っています。益子の方が少し小さいですが、イメージが付きやすいと思います。ご覧になって次回ご参加いただければ、大変助かります。次回は今日の振り返りと、複合施設の機能を話し合いたいと思います。今日のご意見を反映させた資料を、遅くとも1週間前には郵送で送りたいと思いますので、ご覧いただき、スムーズな会議にしていきたいと思います。よろしくお願いします。事務局からは以上です。

委員長／ありがとうございました。以上で終了します。